

第2回 横浜市港北区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録

日 時	令和3年4月15日(木) 午前9時30分から11時まで
開催場所	港北区役所4階1号会議室
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 西田 ちゆき (法政大学助教)</p> <p>委員 飯島 伸博 (中小企業診断士)</p> <p>岡本 忠亮 (あみねっと代表)</p> <p>加藤 修 (社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会会長)</p> <p>加藤 良一 (港北事業者連絡会“ガンバ港北”副会長)</p> <p>川原 裕美子 (港北区主任児童委員連絡会代表)</p> <p>永野 和子 (港北区民生委員児童委員協議会副会長)</p> <p>福松 美代子 (港北区保健活動推進委員会会長)</p> <p>宮田 寿雄 (高田町連合町内会長)</p> <p>【事務局】</p> <p>港北区福祉保健課長 丹野 久美</p> <p>港北区福祉保健課事業企画担当係長 久保村 駿</p> <p>港北区高齢・障害支援課長 林 正隆</p> <p>港北区高齢・障害支援課高齢者支援担当係長 大澤 規美子</p> <p>港北区高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長 佐藤 修</p> <p>港北区福祉保健課事業企画担当 篠 沙織</p>
欠席者	無し
開催形態	非公開
議題	<p>1 応募団体の面接審査</p> <p>2 指定候補者の審査・選定</p>
決定事項	<p>指定管理者の候補者(以下「指定候補者」という。)及び指定候補者を指定管理者として指定できない場合に指定候補者に代わって指定候補者となる者(以下「次点候補者」という。)として、次のとおり、横浜市港北区長に報告することとする。</p> <p>横浜市日吉本町地域ケアプラザの指定候補者及び次点候補者</p> <p>指定候補者：社会福祉法人緑峰会</p> <p>次点候補者：無し</p>
議事	<p>1 開会</p> <p>(事務局)</p> <p>(1) 定足数の確認</p> <p>委員9名のうち出席者数9名で、委員会成立要件を満たすことを確認。</p> <p>(2) 会議の公開・非公開についての確認</p> <p>プレゼンテーション、質疑応答及び審査は全て非公開とすることを確認(第</p>

1回委員会で審議済み)。

(3) 配付資料・タイムスケジュールの確認

配付資料を確認。面接審査の全体の流れについて説明。プレゼンテーション10分、質疑応答10分で実施。法人退出後、事務局より前期実績報告書を説明、飯島委員より財務状況を説明したのち、各委員が採点を実施。

(4) 応募状況の報告

公募の結果、1法人から応募書類の提出があった旨を報告。

(5) 審査方法等の確認

- ・応募は1法人のみだが、最低制限基準（「7前期の指定期間の実績」を除く項目の総合計の60%となる1,593点。以下同じ。）に満たない場合は、再選定を行う旨を確認（第1回委員会で審議済み）。
- ・採点方法について説明。「7(1)前期の指定管理業務の実績」は-10~15の任意の点数を記入、「7(2)職員配置状況」は過去3年間平均の常勤職員充足率が97.25%を下回る場合は5点減点、上回る場合は減点なし。

(6) 応募資格要件の確認結果の説明

- ・応募団体について市税滞納はない旨を確認。暴力団排除条例に基づく神奈川県警への照会の結果、排除措置対象に該当しない旨を確認。欠格事由に該当しないことを報告。

2 議題

(1) 面接審査

ア プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

イ 主な質疑応答

(委員) ケースワーク（個別支援技術）にしてもコミュニティワーク（地域援助技術）にしても、人と人をつなぐ絆や関係性を作っていくお手伝いをしていくことだと思うが、コロナ禍でそのハードルが上っている状況で、工夫が必要となっていると思う。プレゼンの中でも創意工夫が大切という話があったが、試みや行っていることがあれば教えてほしい。

(団体) コロナ禍で人と人をつなぐことは難しいと感じている。ただ、利用者みなさんと相談業務の中で接していると、欲しているのは人の温かさ。来なくていいという人も中にはいるが、訪問に来てほしいという声もあるので、訪問することもある。訪問の際は基本的な感染対策を実施し、換気や距離を保つ、スタッフの健康管理等の対策に留意した上で、相談者が寂しい思いをしないようにということを心に置いて日々相談業務にあたっている。

(委員) 貸室の利用状況について教えてほしい。

(団体) ほぼ全ての団体が利用している。距離が保てない麻雀などは判断が

難しかったが、団体ごとに感染対策を考えてもらい、それを事前にケアプラザがヒアリングし、現在は全ての団体が貸館を利用可能。時間短縮や人数制限を設けて、各団体にウィズコロナを前提に活動していただいている。地域活動においてケアプラザの敷居を下げたいというところで、事前の参加連絡なしでサロンなどを行っていたが、現在は事前連絡をいただき人数制限をしたうえでサロンなどの自主事業を少しずつ再開している。コロナに対する考え方は一人一人違うので、そこの認識をどれくらい理解してアプローチしていくかが今後課題と感じている。

(委員) 歌や飲食を伴う利用の再開状況を教えてほしい。

(団体) 当ケアプラザでは、飲食については、話す際のマスク着用の徹底、歌についてもフェイスシールドの着用や距離の確保、換気等の対策をしたうえで活動してもらい、一律不可とはしていない。「元気作りステーション日吉」というサロンでは、話す時はマスクを着用、マスクを外して飲食する時は会話をしないことを徹底し、参加者もそれをしっかりと守ってくれているので、一概に不可としなくても良いと考えている。

(委員) 過去発生した事故事例の中で個人情報の漏えいが何件かあり、再発防止策としてダブルチェックなどがあげられているが、具体的にどのよう
に防いでいくのか、職員への意識付けなど対応をお聞きしたい。

(団体) 個人情報とは何かというところから入職時に研修を実施。年1回全体研修として個人情報漏えいの事故事例を参考に注意喚起を実施。書類の取り違いやFAXの誤送付が過去に発生したため、マニュアル・手順書を作成。必ず2名体制で送り先の確認等をするようにルールを決めて行っている。

(委員) 社会からの孤立や地域デビューについてお話しいただいたが、町内会役員の立場としては担い手不足が大きな課題。地域がケアプラザや自治会と連携してその解消につなげていくことができるとするなら、事例も含めてもう少し詳しくお聞きしたい。

(団体) 日吉本町でもボランティア会から地域の担い手不足や会の存続が厳しいという話を聞く。ケアプラザとしては「男のセカンドライフカレッジ」という事業に取り組んでおり、ボランティア会のメンバーの得意分野を生かしつつ、保健活動推進員や港北区ボランティアガイドなどの協力を得ながら、担い手不足という課題がある中で自分たちの強みを生かして取り組んでいる。

(委員) 社会福祉そのものが変化し、対象が高齢者からより幅広くなったことで、本当に必要なものが変わってきている。地域と色々とコンタクトをとったり、近隣の下田地域ケアプラザと連携して取り組んでいることは大変良いこと。このような取り組みから、これからの社会福祉にどう対応していくのかお聞きしたい。

(団体) 今、「介護」という言葉が先行していて、「地域包括ケアシステム」という言葉が出てきてから 15 年が経つが、このシステムがどれだけ地域で具現化されているかという、まだまだできていないと感じる。高齢者を支えるための社会資源作りは、高齢者だけを見てはできない。若者を含めた地域全体を見ながら福祉活動が地域の中でどれだけ取り組まれているのかケアプラザが把握し、地域の方にもケアプラザの考えを理解してもらい、地域の一員として日吉地区の福祉を支えていきたい。

(2) 前期実績報告書、財務分析結果の説明

・事務局より前期実績報告書について説明。飯島委員より財務分析結果報告書について説明。

(3) 審査、選定

プレゼンテーション及び面接審査並びに前期の指定管理業務の実績に係る報告等を受けて評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

	応募団体	評価得点/満点
指定候補者	社会福祉法人緑峰会	2,170/2,790 点
次点候補者	無し	

(審査講評)

実際にプレゼンテーションを聞いて熱意が伝わった。地域とのつながりを大切にしつつ、課題を汲み取りながら先を見据えて動いているという印象を受けた。応募書類からも財務状況が安定していることや、職員のレベルの高さを感じられた。しっかりとした基盤があり、安定した運営が期待できる。

シニア層の講座(男のセカンドライフカレッジ)を先駆的に行っており、今後地域福祉の担い手の質が変わってくる中で、引き続き工夫して取り組んでいただきたい。地域ケアプラザの対象が広がっている中で、高齢分野が得意だと思うが、様々な団体と取り組みながら、子育て支援や障害者支援の分野もアイデアをもらい研鑽してもらいたい。

指定候補者の得点は最低制限基準を満たしているため、選定委員会として社会福祉法人緑峰会を指定候補者として選定することを決定する。

資 料
・
特 記 事 項

1 資料

- (1) タイムスケジュール
- (2) 市税納付状況確認の照会結果
- (3) 団体役員等の照会結果
- (4) 審査票

2 特記事項

特に無し